

昭和モダン 戦前期の絵画と文学の動向 1926-36

展覧会企画にあたって

- ・ 昭和最初の10年間という時代
- ・ 「絵画」と「文学」 異なるジャンルの並置と交流
- ・ 美術館は文学をいかに展示するか

展覧会構成

プロローグ 大正から昭和へ

白樺派

マヴォ

円本

芥川の死

1 プロレタリアの芸術

(絵画) 岡本唐貴、矢部友衛、柳瀬正夢、大月源二、寺島貞志、前田寛治ら

(文学) 小林多喜二、徳永直、葉山嘉樹、黒島伝治、中野重治、平林たい子ら

(トピック) 前田寛治と福本和夫

文芸戦線

柳瀬正夢のグラフィック

ナップ

小林多喜二と大月源二

村山知義の演劇の仕事

2 新感覚・モダニズム

(絵画) 東郷青児、古賀春江、三岸好太郎、福沢一郎、川口軌外、中原實ら

(文学) 横光利一、川端康成、堀辰雄、龍胆寺雄、西脇順三郎、北園克衛ら

(トピック) 新感覚派

横光利一と佐野繁次郎

川端康成と古賀春江

ルル子

新興芸術派

心理主義とシュルレアリスム

3 文芸復興と日本的なもの

(絵画) 梅原龍三郎、安井曾太郎、藤島武二、須田国太郎ら

(文学) 志賀直哉、島崎藤村、永井荷風、徳田秋声ら

(トピック) 『蓼喰ふ虫』の挿絵

暗夜行路

ぼくとうきたん

エピローグ 戦争と芸術

石川達三

火野葦平

阿部合成